

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる

事業名：上天草市で生きたくなる！バックアップ大作戦事業

（平成28年度事業費：51,066千円）

【様式2】

総務企画部
企画政策課
経済振興部
産業雇用創出課

1 事業の概要

○本市の移住者は比較的高い年齢層が多いことから、“本市の知名度向上”と“ターゲットの絞込み”を軸に、若年層に訴求するシティプロモーションによる情報発信強化や移住体験ツアーの実施、移住相談会への参加等を行い、移住の契機となる「上天草市に強い魅力を感じる観光客」の取り込みをさらに加速させ、移住検討者から選ばれる市を実現する。
○海運業は船員の高齢化や担い手不足が喫緊の課題となっており、海運業疑似体験システムを導入し、航行中の映像や船舶内の様子をリアルタイムで伝えることにより、船員を志す若者の増加を促す。

2 重要業績評価指標(KPI)

○移住相談件数 最終目標：累計420件
【H28】目標 90件 → 実績 89件
○市対応による移住者数 最終目標：累計88人
【H28】目標 19人 → 実績 51人
○観光入込客数 最終目標：1,572,300人/年間
【H28】目標 1,435,100人 → 実績 1,589,375人
○新規船員数 最終目標：累計40人
【H28】目標 10人 → 実績 8人

担当課
評価

A

若者に人気のお笑いトリオ「ロバート」秋山氏を起用したプロモーション動画を作成しネット配信したところ、再生回数は135万回を超え、TVなど数多くのメディアで取り上げられ（広告料換算で2億円超）、本市の知名度が格段に向上した。
また、シティプロモーションによる効果、移住相談会への積極的な参加（計11回）、移住お試し施設の設置（2か所：延40人が利用）、移住アドバイザーによる移住検討者へのきめ細やかな相談対応に加え、移住者への助成制度を創設（11件利用）したことから、市が対応した移住者数は目標を大きく上回り、相談件数も目標をほぼ達成した。
また、担い手不足解消を目指して取り組んだ海運業疑似体験システムは、市内小学校での体験会（登立小学校）を実施したところ、教室にしながら海運業者の具体的な仕事内容をリアルな映像と音声を変えて疑似体験することができ、体験終了後、子どもたちに聞き取りを行ったところ、“海運業に興味を持った”との意見があったことから、海運業の認知度向上に貢献できた。

改善（平成29年度における取組みなど）

シティプロモーションは、昨年の活動により本市を「知る」きっかけづくりができたため、平成29年度は、その効果を高めるとともに「知る」だけでなく市内に人が「来る」プロモーション活動となるよう、内容を充実させて継続実施する。また、新たな移住支援制度の創設や地方創生推進交付金を活用した条件不利地域を逆手に取った独自の移住促進策の実施など、新たな展開による移住促進強化に取り組む。
海運業疑似体験システムは、今後も市内小中高校への積極的な活用を推進し、市内学卒者からの就労を促進するとともに、市外からの雇用促進を図るため、市外の若者をターゲットとした出前講座の開催など、幅広い地域でのPR活動に活用していく。

推進会議
評価

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：島旅サイクリング推進事業
(平成28年度事業費：13,518千円)

【様式2】

経済振興部
観光おもてなし課

1 事業の概要

○近年急伸しているサイクリングブームへの速やかな対応を図るため、風光明媚な景色や起伏に富みながら走りやすい道路など、天草地域が有する環境を活かし、コースマップの作製やHPへ情報掲載（市・観光協会HP）などサイクリング好適地としての情報発信や、サイクルラック・案内看板など受け入れ態勢等の整備を行うことで、サイクリストの来訪意欲を高め、入込客の増加を図り、地域経済の活性化による雇用機会の創出を目指す。

2 重要業績評価指標(KPI)

○天草地域の観光入込客数 最終目標：500万人
【H28】目標 450万人 → 実績 442万人
※速報値

担当課
評価

B

KPIについては、天草五橋開通50周年のメモリアルイヤーであることもあり、高い目標を掲げていたところ、熊本地震による風評被害の影響で天草市、苓北町の観光入込客数が激減したにもかかわらず、上天草市の入込客数が対前年比で大幅なプラスとなり、目標値に近い入込客数を確保できた。

サイクリングに限った場合、情報発信事業により、国内はもとより特に台湾での認知度が向上し、最近では、県外やアジア圏からの問い合わせがあるなど、想定範囲を超えた成果も見られた。また、環境整備・受け入れ態勢整備事業では、地元サイクリストの協力を得て、サイクリスト目線でのコースマップやサイクルラック、案内看板等の整備を行ったことにより、県内のサイクリストの間で情報が拡散（Facebookサイクリング専門ページ）し話題となっている。

なお、サイクリストの天草地域への訪問者数の把握は困難であるが、観光事業者の聞き取り調査（サイクリングマップを求めて立ち寄る人が増えた）などから、一定の訪問者数増加があり目標どおりに進捗していると推測される。

改善(平成29年度における取組みなど)

平成28年度 of 取組みにより認知度の向上と入込客数の増加が図られているものの、県外等への情報発信をさらに強化する必要があるとともに、サイクリングを楽しむだけでは地域経済への波及効果が限定的であるため、今後、グルメや温泉、宿泊等の魅力をセットにした新たな提案をサイクリストに発信すること等により、さらなる入込客の増加と域内消費の拡大につなげ、地域経済の活性化を目指す。

推進会
議評価

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：パライゾ天草地域資源“アブリダス”事業
(平成28年度事業費：19,826千円)

【様式2】

経済振興部
観光おもてなし課
産業政策課

1 事業の概要

○観光事業者や市民が広く観光客をおもてなしするスキルと環境を醸成するため「おもてなし観光大学（ガイド養成講座）」を開講し、来訪者の満足度を高めてリピーター等を増加させ、地域経済の活性化を図る。
○地域特産品の商品開発から販路拡大に至るまでの成功モデルを創出し、その実践例を標準化し他に広げることで、6次産業の底上げを図る。
・商品のブラッシュアップ・成功モデルの創出
・農林水産物の販路拡大促進に係るスキルアップ研修
・都市部等の大消費地での販路開拓、アンテナショップ出店

2 重要業績評価指標(KPI)

○観光大学の専門的、実践的な講座開催
最終目標16回（累計）
【H28】目標 4回 → 実績 4回
○観光入込客数 最終目標：1,572千人
【H28】目標 1,449千人 → 実績 1,589千人
○1年間の新規取引件数 最終目標 60件（累計）
【H28】目標 15件/年 → 実績 17件/年
○一次産業就業率 最終目標 12%増
【H28】目標 6% → 実績 12.8%

担当課
評価

A

おもてなし観光大学の取組みについては、専門家が直接事業所へ出向き評価を行い、問題点や解決方法を市内事業者へ情報共有したことで、市内観光関連事業者のおもてなしの意識向上に繋がった。また、上天草ガイドの会や上天草高校を対象とした講座を実施したことにより、旅行客の満足度や地域全体でおもてなしする雰囲気醸成することができた。
6次産業の活性化を目指し取り組んだ商品開発及び販路拡大事業については、自社商品を販売先のニーズに合うよう商品のブラッシュアップを行うほか、販売スキルの向上のための研修会や、大消費地である関西・関東でイベントを開催し、アンテナショップを出店する機会を設けた。また、自社商品の商談の場を提供したことで、市内事業者の商品開発や販路拡大への意識が高まった。

改善(平成29年度における取組みなど)

おもてなし観光大学については、今年度マーケティングの手法などの専門的な講座を開催するとともに、多くの市民を巻き込んだ取組みを加速させ、さらなる効果的な事業推進を図る。また、商品開発については、売上などの自社目標を明確に設定することで、販売に関する取組みの強化に加え、市内の小規模加工事業者及び販売事業者を洗い出し、収益を上げる仕組みづくりを行う。これに連動し、引き続き商品開発・販売のスキル向上を図る研修、大消費地での販路拡大等に繋げる物産展及び商談会並びにアンテナショップへの出店など販売に特化した事業を展開していく。

推進会議
評価

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる

事業名：VISITあまくさ・しまばらプロジェクト推進事業

(平成28年度事業費：4,687千円) ※全体事業費77,281千円

【様式2】

経済振興部
観光おもてなし課

1 事業の概要

○天草五橋開通50周年、雲仙・天草国立自然公園編入60周年という記念すべき年に当たり、広く情報発信するプロモーション事業や、世界遺産とオルレを活用したインバウンド促進事業、DMO基盤整備事業等を実施し、天草地域が一体となって魅力を発信し、島原・天草連携の枠組みの中で交流人口拡大の取組みをさらに深化させ、持続した地域づくりの礎を築く。

2 重要業績評価指標(KPI)

○延べ宿泊者数 最終目標265,800人
【H28】目標 241,300人 → 実績 297,243人

担当課
評価

A

例年実施している「天草五橋祭」では、前年度(2.6万人)を大きく上回る4万人が参加し、同時開催の「五橋開通50周年記念イベント“ハンドinハンド”(熊本県主催)」では、参加者数2,267人と非常に盛り上がった(ギネス登録認定)。
また、市が主体となって行ったインバウンド促進事業では、本市を訪問する外国人観光客の言語の割合が大きい英語、韓国語、中国語(繁体字・簡体字)版のパンフレットを合計700部作成し、観光協会や旅館、飲食店等に配置するなど、外国人観光客の受け入れ態勢を強化した。これに加え、DMO基盤整備事業を実施し、観光客の情報収集、分析システムで実証を行うことで観光客のニーズ等を把握できた。

改善(平成29年度における取組みなど)

昨年度実施したDMO基盤整備事業の結果を踏まえ、今年度は観光協会が主体となり観光客のニーズに合わせ飲食店に特化したパンフレットを作成する予定。四郎パスポート(年齢・性別・居住地が把握可能)については、前年度確立した体制を活かし継続することとし、市内観光施設や飲食店などの参加店舗数を増やし、地域一丸となって消費拡大に繋げる。
外国人観光客のパンフレットは、今年度も観光協会をはじめ市内旅館等で配布するとともに、事業所への使用方法の周知を行い、外国人観光客に対する対応力の向上を図る。

推進会議
評価

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

【様式2】

健康福祉部
健康づくり推進課
経済振興部
観光おもてなし課
農林水産課
建設部
都市整備課

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる 事業名：「ヘルシーアイランドづくり」事業 (平成28年度事業費：19,100千円)

1 事業の概要

○本市の観光資源である“海”と一定の集客実績のある“健康”を核とし、インパクトのある情報発信を中心とした前島地区における観光の拠点づくりを行う。
○新しくヘルシーな上天草観光のイメージを定着・発信するとともに、誘客力向上、地域産業全体の強化及び人材育成を図る。
○主要事業は前島観光拠点化事業（イメージアップ情報発信・観光スタンプラリー・ワークショップコーディネート・間伐等森林整備）、複合型スポーツ&ヘルスツーリズム（実施計画作成・遊休養殖場）、トータルブランディング事業

2 重要業績評価指標(KPI)

○観光入込客数 事業開始前 1,423,480人
【H28増加】目標 8,000人 → 実績 165,895人増加
◆最終目標 累計184,520人増加
○前島エリアの観光入込客数 事業開始前 263,179人
【H28増加】目標 7,821人 → 実績 285,049人増加
◆最終目標 累計 39,821人増加
○ヘルスプロモーションイベント参加者数
【H28増加】目標 0人 → 実績 0人増加
※H29以降にイベントを開催するため
◆最終目標 累計1,455人増加

担当課 評価

A

熊本地震の影響で4・5月の入込客数が激減したが、「九州ふっこう割」や市独自の宿泊キャンペーンを実施したことで、28年度を上回る旅行者数となった。また、五橋開通50周年記念として前島地区で五橋祭開催されたことからリゾラテラス天草を中心に前島地区の商業施設の入込客数も昨年度をはるかに上回った。また、人気アニメ「ワンピース」のスタンプラリーを開催したことで、多くのファンが市内を周遊（大矢野から龍ヶ岳）することで、飲食店や観光施設の活性化に寄与した。※スポーツ&ヘルスツーリズム、遊休養殖場調査（アサリ養殖）、間伐等による景観整備及びトータルブランディングは、H29以降に向けた準備を予定どおり実施

改善(平成29年度における取組みなど)

前島観光拠点化事業については、昨年度策定した事業計画をもとに“ワンピース”を活用した集客力のあるイベントを開催することに加え、景観地の間伐（平成29年度は千巖山地区実施）を行い、景観スポットを整備することで、本市のイメージ発信と地域経済の活性化を図る。また、複合型スポーツ&ヘルスツーリズム事業については、アサリ養成に係る試験研究（県水産研究センター）の成果を基に、アサリ養殖（維和地区のクルマエビ遊休養殖場を活用）の産業化に向けた実証へ取組むほか、市の健康素材（温泉・食材・イベント・景観）を活用した人間ドックプログラムや特定検診の健康ポイント制度等を試験的に導入し、平成30年度の本格導入に向けて取組みを進める。

トータルブランディング事業については、昨年開催したワークショップでのアイデアをもとに計画策定と観光客の流れの仕組みづくりを行い、平成30年度の事業実施に向けて引き続き取組んでいく。

推進会議 評価